

1 学校の自己評価

(4) 学校の自己評価の結果と改善策

教職員アンケート結果をもとにしながら、保護者アンケート、児童アンケートの結果もふまえて、学校の自己評価を行った。

教職員アンケートについては、評価は、7月（前期）、12月（後期）の2回行っている。保護者アンケートと児童アンケートは年1回（12月）に行っている。どのアンケートも共に、各項目における「4 そう思う」、「3 どちらかというと思う」、「2 どちらかというと思わない」、「1 そう思わない」の各選択肢のポイント（%）を算出している。

1 全体評価

・保護者アンケート及び児童アンケートのすべての項目において、肯定的評価〔4（そう思う）と3（どちらかというと思う）〕が9割を超えており、本校の今年度の教育活動についておおむね理解が得られていると考える。

2 項目ごとの評価結果

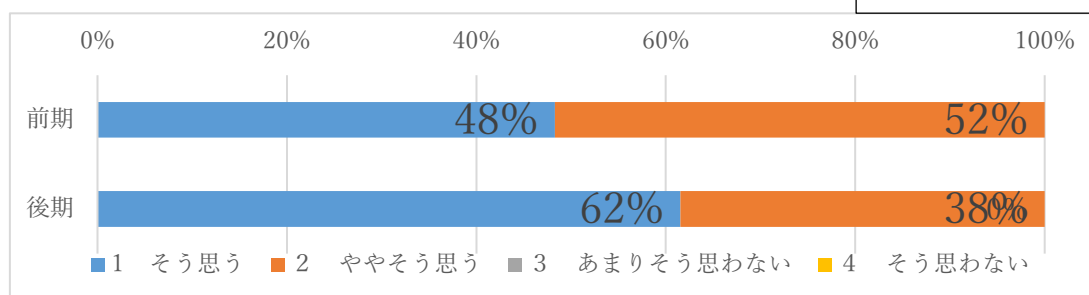
【学校教育目標・学校経営について】

教職員後期の評価を見ると、コロナ禍以前の取り組みにも戻り、行事の多かった2学期だったが、それぞれの職員が学校教育目標及び、学年・学級経営の方針に基づき、充実した教育活動が行われるように努力してきたといえる。PDCA サイクルを生かした教育活動についても先生方も意識して取り組んできたことが表れた評価であった。

しかしながら、様々な課題を抱える児童も少なからずいることから「C」（チェック）を引き続き丁寧に行い、学年・学級や個々の課題を確認し、それを「A」（アクション）改善につなげていかなければならない。また、OJTを活かして若手の育成を図りつつ、学校として課題解決を目指していきたい。

③ あなたは、PDCA サイクルを生かした教育活動を行っている。

教職員アンケートより

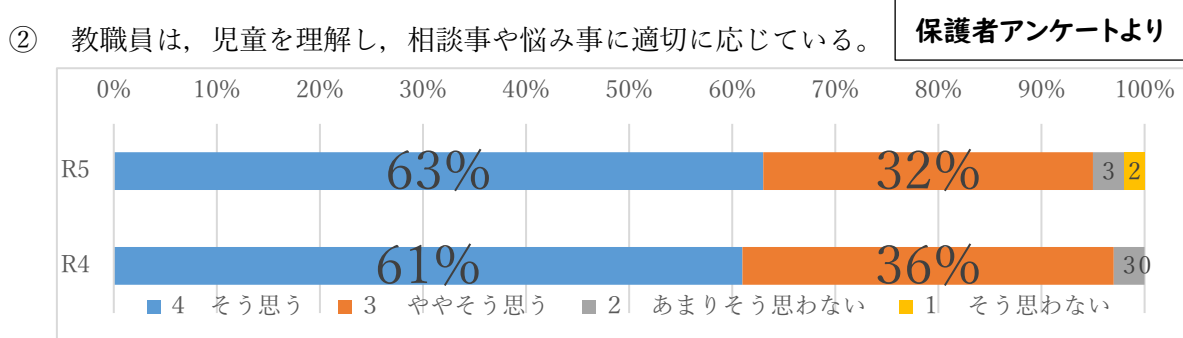
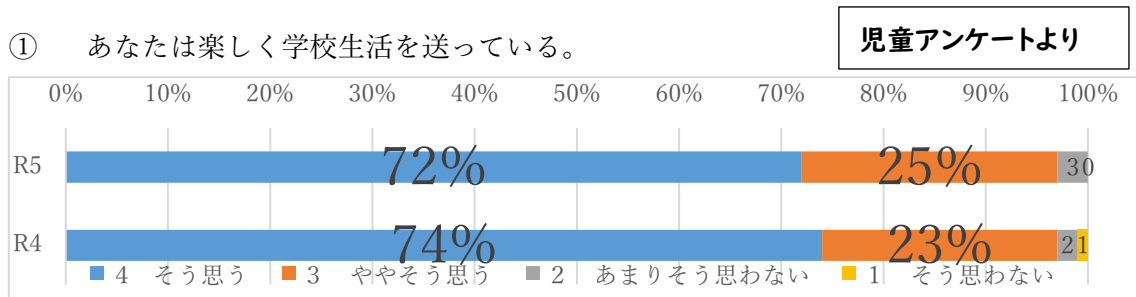
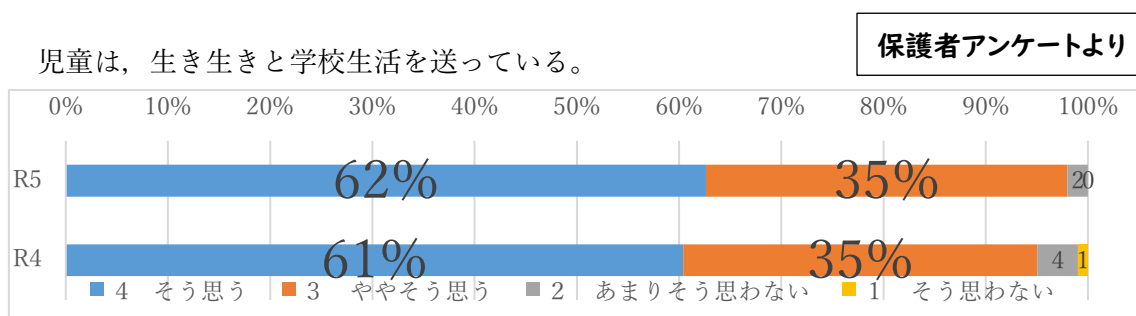


【今年度の重点目標について】

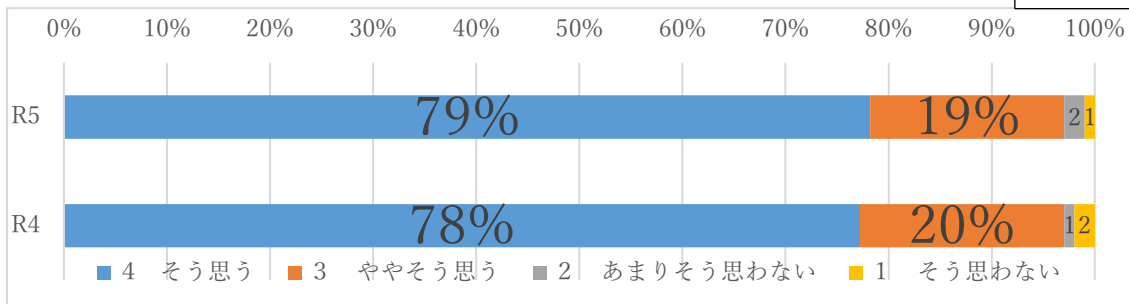
(1) 安心・安全の保障

○生徒指導について

この項における 3 つのアンケートは保護者・児童ともに肯定的評価が、90%以上とな
ってはいるが、保護者については「そう思う」の回答が60%前後とやや低い。児童アンケ
ートからは、児童が安心して生活できていることが伺えるが、「あまりそう思わない」「そう
思わない」と答えている児童がいることから、個々の児童に目を向け、児童が安心して楽し
い学校生活が送れるように、もう一度、学級を見わたり、努力していく必要がある。



③ 先生たちは、みんなのことをわかってきて、相談や悩みを聞いてくれる 児童アンケートより



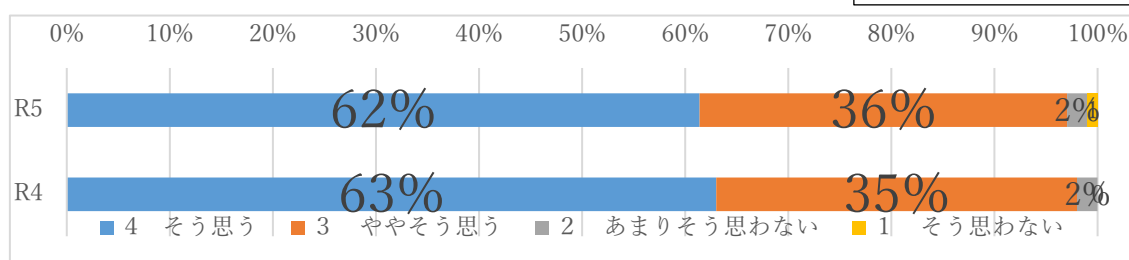
○安全指導について

教職員・保護者・児童アンケートにおいて肯定的評価となっている。保護者アンケートでは、「⑨児童の安全な登下校のために安全指導を行っている」が、60%前半とやや評価が低い。沼公園の事例を含め、学校としてできることを行ってきたが、周知が不十分といった意見もいただいている。

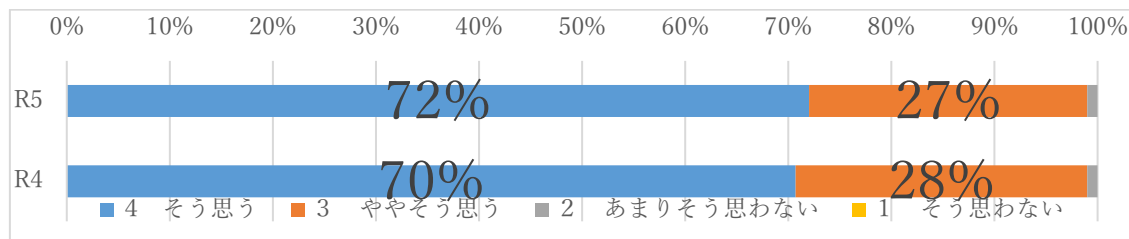
登校班のことについては、保護者の皆様に旗振りで協力いただいていることもあり、また、児童の安心・安全といった面からも非常に関心が高い事柄である。1学期の「押杜っ子を守る会」や「地区懇談会」でも通学路について様々な話題が出ている。沼公園については可能な時には学校職員も送って行ったり、青パトの協力も得たりして見守りを続けている。

「⑩児童の健康管理への対策」についてはコロナが5類に変更にあつたことによって、少し意識が薄らいだのか、全体としての評価は少し下がっている。インフルエンザも多く発生した2学期であったことから、今後も学校の安心・安全のために理解を得ながら、感染症対策の必要を感じている。

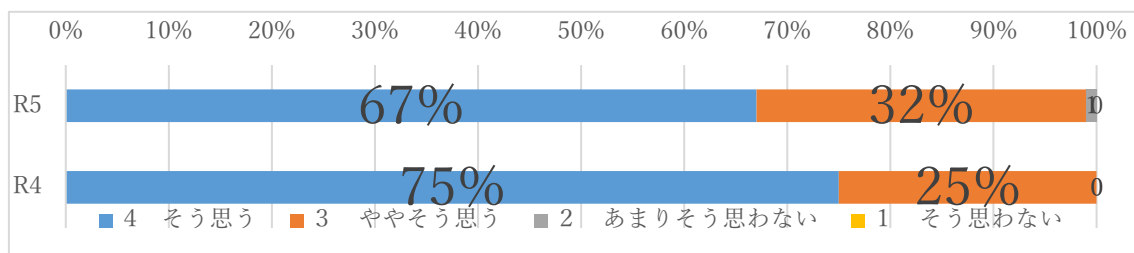
⑨学校は、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている。 保護者アンケートより



⑩ 学校は、災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる。

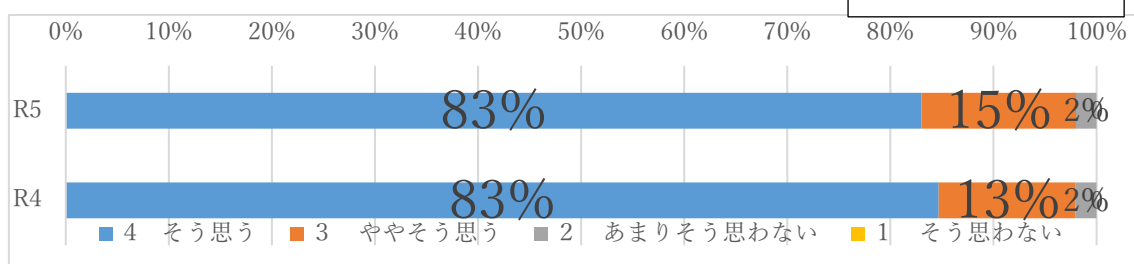


⑪学校は、健康管理の対策に（R5）コロナ感染症予防の対策を（R4）適切に取り組んでいる。

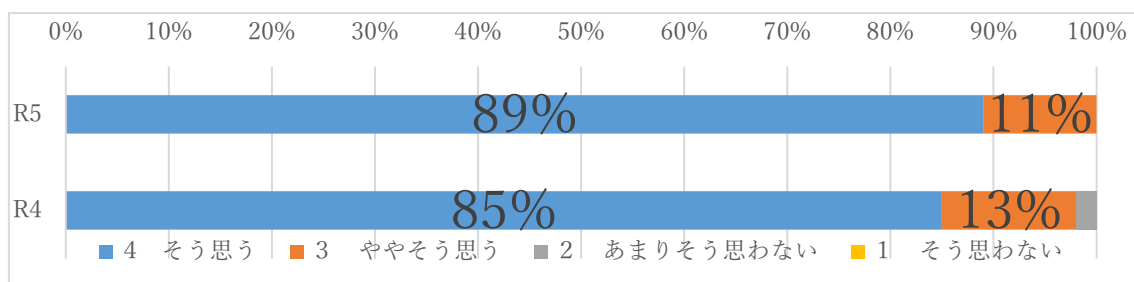


⑨先生たちは、登校班での話や帰るときの注意をしてくれる。

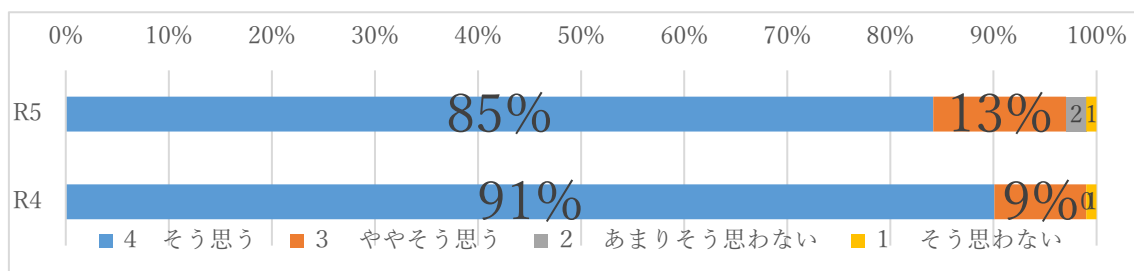
児童アンケートより



⑩先生たちは、避難訓練や防犯訓練など危険にそなえての活動をしてくれる。



⑪先生たちは、健康管理に気をつけ、環境を整えてくれる（R5）コロナの予防をしてくれる。（R4）



(2) 学力の保障

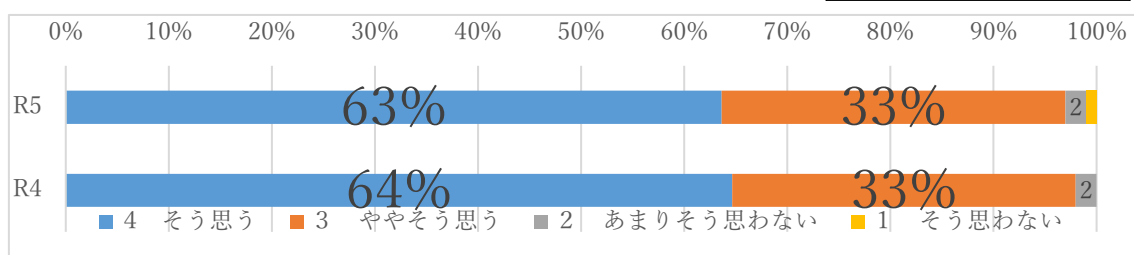
教職員アンケートでは、多くの項目で前期の平均を上回り、先生方が授業の改善工夫に取り組んだ日々の努力が表れている。

保護者アンケート、児童アンケートも「そう思う」は低いものの、おおむね肯定的な支持を得ている。一方で「そう思わない」の評価が保護者の中にあることを見逃ごせない。

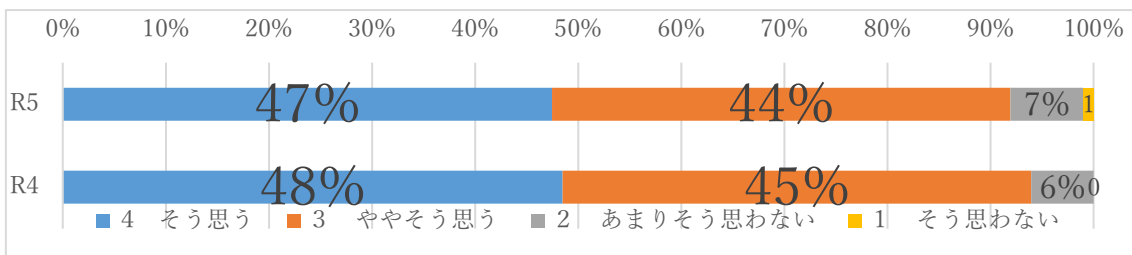
保護者・児童のアンケートで、昨年度は⑧家庭学習についての項目の評価が前年に比べ上昇したが、今年度は横ばいの傾向である。取り組みを定着させつつ、向上につなげていく努力も続けていきたい。

④ 教職員は、分かりやすい授業に努めている。

保護者アンケートより

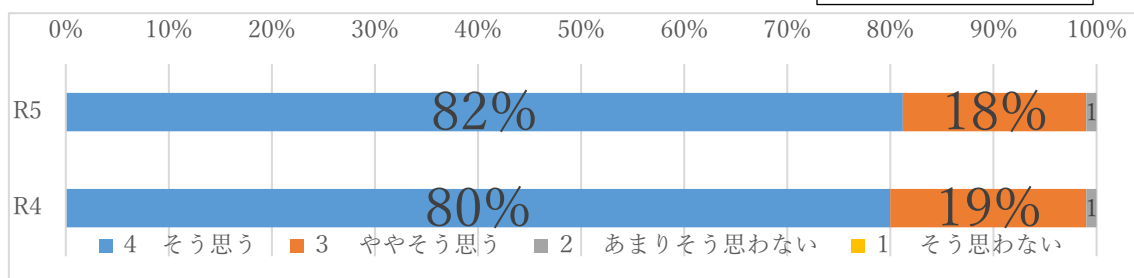


⑧ 学校は、家庭学習について家庭と連携を図っている。

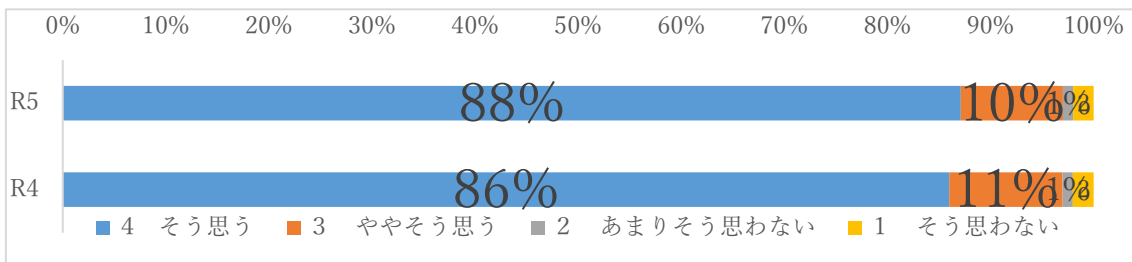


④先生たちは、わかりやすく授業をしてくれる。

児童アンケートより



⑧先生たちは、おうちでの勉強（宿題や自学）を見てくれる。



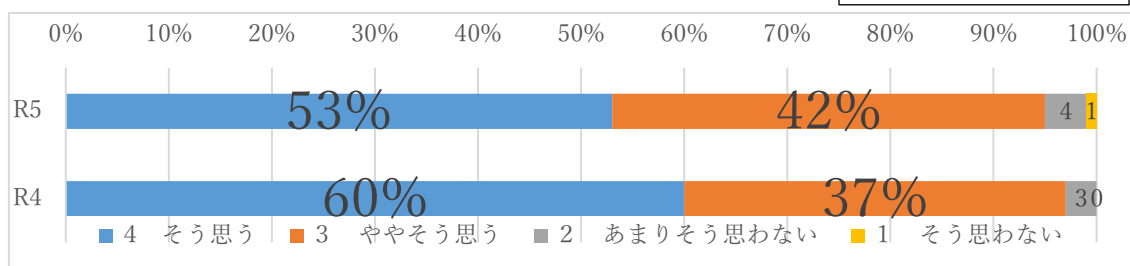
(3) 信頼の醸成

コロナ5類移行に伴って、実施することができなかった行事についても、実施できるようになってきた。また、町の重点校指定を受けての取り組みを行う中で地域や保護者の協力も得ることができた。

気になるのが、⑫あなたは、先生たちからの連絡やおたよりなどきちんとお家の人に伝えている。について児童の評価が下がっていることだ。何を知らせるお便りなのか、その意図も説明しながら配布するなど、教師側の工夫も求められる。

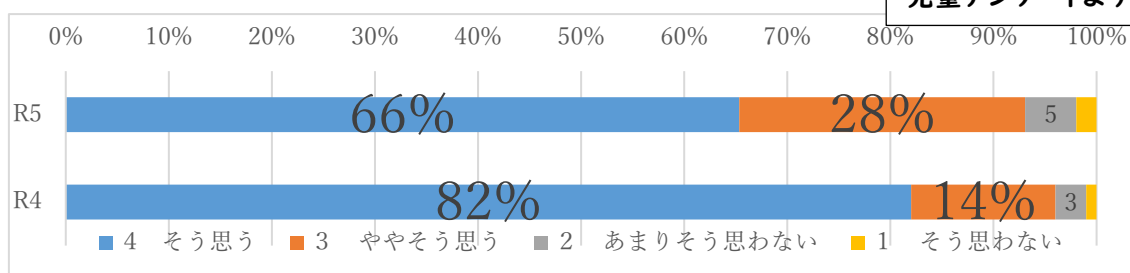
⑭学校は保護者の意見や要望に対して適切に対応している。

保護者アンケートより

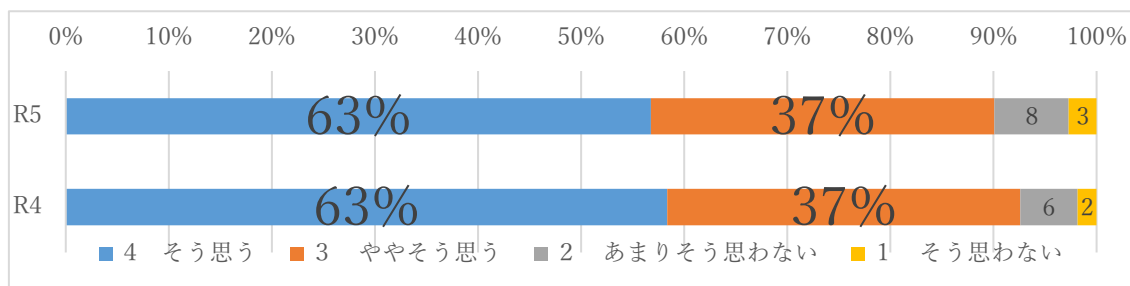


⑫ あなたは、先生たちからの連絡やおたよりなどきちんとお家の人に伝えている。

児童アンケートより



⑬ あなたは、家庭訪問や個別懇談が終わった後は、お家の人と学校のことについて話をしている。



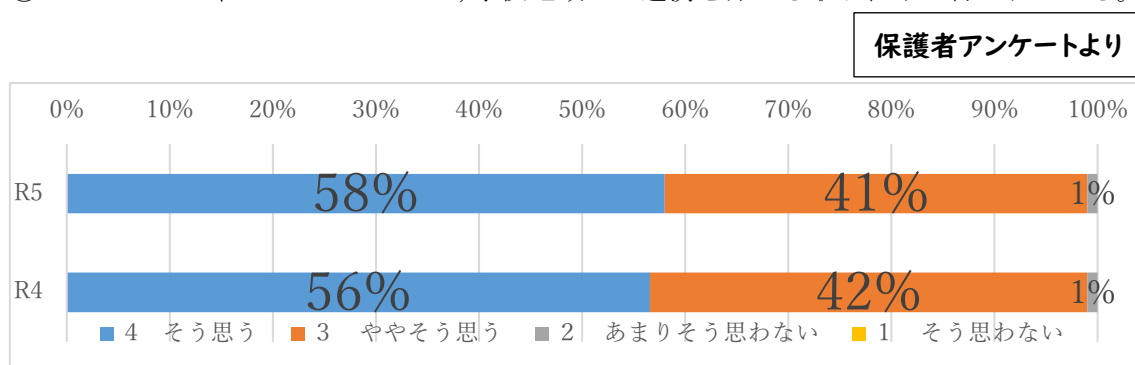
⑬は昨年までも評価の低かったところである。

学校から、積極的に児童の良いところや頑張っているところを発信しできているだろうか、家庭に伝えられてるいるだろうか、懇談の機会も有効に活用したい。また、児童の自己肯定感が高まり、自身も持って生活できるように支援していきたい。

(4) 参加の促進

コミュニティ・スクールの取組に関しては、CS に関する町の重点校の指定も受ける中で、校内研での研究も併せ、様々な新しい取組みも行ってきた。「押杜っ子を守る会」「地区懇談会」の取組みも再開し、また、サマースクールで保護者の皆様に協力いただくこともできた。CS 感謝の集いに変えて感謝の手紙を日頃お世話になっている地域の皆様に送る取組を今年度も行い、地域の皆様から温かい内容の手紙のお返事をいただくことができた。

⑮ コミュニティ・スクールとして、学校地域との連携を深める取組みが行われている。



「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の連携を探りながら、コミュニティ・スクールとして10年目の節目、新たな一歩を進められた1年間であった。